

リンゴハマキクロバ

淡い黄色のケムシ（幼虫）。最大長約20mm。背中に黒い縦縞があり、その両側に黒い斑点が列状に並ぶ。白い短い毛が多数生える。単独で葉を糸で綴り、袋状の巣を作る。巢内で生活し、葉面をかじる。

幼虫は6月に発生。リンゴ、ズミ、ナシにつき、ときに多発する。



1. 幼虫，体長12mm。1996/6/17。美唄，リンゴ。 2. 被害葉，1の巢を含む。

【学名】 *Illiberis pruni*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， マダラガ科 (Zygaenidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；シベリア南東部，中国北部。

【生態】

年1回発生。

幼虫は5～6月に葉を食べて成長する。十分成長すると地上に降りて、落葉中や土の浅いところで繭を作る。

翌年の早春に繭から蛾（成虫）が孵化する。

【被害と防除】

ときどき多発する。被害はたいてい1年で終わる。

食害された葉が枯れて樹上に残るので、被害は目立つ。夏までには新しい葉が開き、緑に戻る。食害で木が枯れた記録はない。

黄色や茶色に枯れた葉をみつけたら取り除く。幼虫の体毛が皮膚に刺さることがあるのでゴム手袋をすること。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

リンゴハマキクロバ madaraga/ringoha/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/2.

1higai.jpg, 1yochu.jpg

「写真1～2」 原秀穂，北海道立林業試験場，1996.

